

県全体をキャンパスに 現代社会を生き抜く 人間力を育てます

宮城大学 学長 馬渡尚憲

取材文／堀水潤 撮影／中岡邦夫



【学長プロフィール】1940年生まれ。東京大学経済学部卒業、69年同大学院経済学研究科単位取得退学。法政大学助教授、東北大学経済学部教授、同経済学部長、同副総長などを経て、03年より現職。09年、法人化に伴い理事長兼務。東北大学名誉教授、経済学博士。

【大学プロフィール】1997年開学。看護学部（看護学科）、事業構想学部（事業計画学科・デザイン情報学科）、食産業学部（ファームビジネス学科・フードビジネス学科・環境システム学科）の3学部6学科体制。

本学は今春法人化され、県立大学から公立大学法人立の大学となりましたが、宮城県の大学であることに変わりはありません。1997年の設立以来、本学は実学主義と地域貢献を柱に、県民や地域のニーズを踏まえて運営されてきました。独特の学際的な学部構成もそのためです。

例えば「事業構想学部」は、地域経済の活性化を目的に、企画力・構想力豊かな人材の育成を目指す新しいコンセプトの学部です。また「食産業学部」は、食料王国といわれる本県にあつて、食品加工や外食産業など付加価値の高い食産業のリーダーを育成すべく05年度に新設されました。「看護学部」にしても、地域医療界の要請にこたえ、4年制大学として県内に初めて設置された学部です。

法人化に前後して本学は様々な改革に取り組んできました。「共通教育」の改革もその一つ。例えば語学では少人数教育を徹底しネイティブスピーカーによる完全英語講義を導入しました。コンピュータリテラシーや健康講座のほか、美術や音楽の講義も充実しています。こうした共通の教養教育では、専門教育を受けるための基礎学力はもちろん、主体的にキャリアを形成し、現代社会を生

き抜くための人間的能力を形成してゆきます。

本年度は通常の奨学金制度とは別に「学習奨励基金」制度を創設しました。共通教育の「英語講義」や看護学部の「実践看護英語演習」ほか、正課授業に組み込まれた海外研修の旅費等を意欲のある学生に支給するものです。こうした制度を活用し若者が地域から世界へと羽ばたくことを期待しています。

一方、本学の使命である地域に貢献する人材の育成にも力を注いでいます。地域人材育成プログラムを導入すると共に、地元企業でのインターンシップでは、先生方が自ら企業と熱心にやりとりをし、共にプログラムを作っています。

知事の言葉を借りれば「宮城県全体がキャンパス」。まさにそんなスケールで学校が運営されているのです。学生もそれにこたえ、管弦楽団や踊りのサークルが地元のお祭りやイベントを盛り上げるなど、在学中から地域貢献に活躍してくれています。

本学は設立から13年目を迎え、発展期という新たなフェーズに入りました。今後も、県民から「自分たちの大学だ」と誇りに思われるような大学を目指していきたいと思っています。